

令和4年度学校評価の報告

学校教育法第42条、第43条および第133条並びに学校教育法施行規則第66条、第68条及び第189条に規定される学校評価を実施した。評価は、東濃看護専門学校の学校評価の方針（平成30年3月）に従い、自己評価、自己点検、個別行事総括3構成で実施した。

【学校評価の目的】

学校評価は、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見し、その解決を目的としている。このため、評価行為は、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見するために実施し、評価行為によって発見された課題は、解決方法を検討し、次の機会には実行し、その結果を検証することとしており、評価から検証までを一連の過程として実施するものである。

<自己評価>

評価項目ごとに、学校長以下11人の職員のうちから関係職員を選び評価者とした。評価項目の達成状況は、達成（評価項目の求めるレベルを達成している、現在の達成度を維持する）、取り組み中（課題の解決に取り組んでいる、達成のレベルに到達していない）、不十分（取り組みが不十分、未着手）の3段階で評価した。

また、評価項目の適・否については、評価項目が適切であるかを適（適切な評価項目）、否（不適切、不要、評価不能、将来に亘って達成が困難な評価項目）の2段階で評価した。

評価の結果

1) 学校評価自己評価表（評価項目の達成状況）

項目	延評価者数	延評価者の内訳		評価件数分布（構成比）		
		評価件数	無回答	達成	取組中	不十分
1 教育理念・目的・目標	48	48	0	95.8%	2.1%	2.1%
2 カリキュラム	63	63	0	98.4%	1.6%	0%
3 授業課程	99	99	0	91.1%	6.1%	2.8%
4 実習指導体制	108	108	0	94.4%	4.6%	1.0%
5 学校組織・運営	181	181	0	82.3%	17.1%	0.6%
6 教育環境	96	96	0	93.8%	5.2%	1.0%
7 学修・進路	36	36	0	100%	0%	0%
8 学生生活への支援	60	60	0	95.0%	5.0%	0%
9 地域との連携	24	24	0	66.7%	29.2%	4.1%
合計	715	715	0	90.8%	8.3%	0.9%

※延評価者数とは、評価項目を担当した職員の延数

※評価件数分布は、評価件数に対する各評価の構成比

・おおむね達成状況に昨年との差異はほとんどなかった。達成は平均90.8%で、90%以上の達成は9項目中7項目、最も低かった項目は「9 地域との連携」で達成は66.7%にとどまった。内訳は「教育活

動を通して地域社会への貢献を積極的に行っている」が75.0%、「地域の諸資源を学習教育活動に取り入れている」が58%であった。

- ・「5 学校組織・運営」は達成 82.3%であったが、「教職員のキャリア形成の支援体制がある」は達成 58.3%・取組中 41.2%、「教職員が働きやすい環境を整備している」は達成 66.7%・取組中 25.0%、不十分 8.3%であり、教職員への支援に関する評価は低い結果となった。

2) 学校評価自己評価表（項目の適否）

項 目	延評価者数	延評価者の内訳		評価件数分布（構成比）	
		評価件数	無回答	適	否
1 教育理念・目的・目標	48	48	0	100%	0%
2 カリキュラム	63	63	0	100%	0%
3 授業課程	99	99	0	100%	0%
4 実習指導体制	108	108	0	97.2%	2.8%
5 学校組織・運営	181	181	0	100%	0%
6 教育環境	96	96	0	100%	0%
7 学修・進路	36	36	0	100%	0%
8 学生生活への支援	60	60	0	100%	0%
9 地域との連携	23	23	0	100%	0%
合 計	714	714	0	99.6%	0.4%

- ・ 8項目については全評価者が「適」との回答であったが、「4 実習指導体制」については「否」の回答が2.8%(1名)あった。

3) コメント

コメント数は19件。コメントが記載された項目は18項目。不十分の評価に付されたコメント数は5件あった。また、評価項目以外の課題については、1件のコメントがあった。

(次頁コメント一覧参照)

【コメント一覧】

大項目	中項目	評価項目	達成評価	項目適否	コメント
1	教育理念・目的・目標				
	(2) 教育目標の達成と評価				
	2)	設置母体、学校、学生のニーズに対応して見直している	不十分	適	見直しているかどうか、不明確。
2	カリキュラム				
	(1) カリキュラム編成				
	6)	科目を担当する教員（講師）は、専門性を踏まえて配置している	取組中	適	十分とは言えない科目もある。
3	授業課程				
	(1) 授業計画				
	5)	授業準備のための時間が取れる体制を整えている	取組中	適	コロナ関連で、急速リモートになり時間が取れない
			取組中	適	勤務時間中では時間が不足、自宅での作業時間が必要となる。
4	実習指導体制				
	(1) 実習施設の要件				
	1)	実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している	達成	適	実習を受け入れてくれる施設に合わせた目標、内容を設定している場合もある。
	2)	実習施設は実習目的を果たすために適切・妥当であるか定期的に見直している	達成	適	
	(3) 実習指導者と教員の協働体制				
	2)	実習指導者は学生の看護ケアに適切にアドバイスできている。	達成	否	すべての指導者について把握するのは困難であるため、「実習施設（部署）は、…」とするのがよいのではないか
	3)	実習指導者は看護実践の創意工夫に努める姿勢がある	達成	否	
	4)	実習指導者は実習計画をもとに、指導計画を立案・実施・評価している	達成	否	
			不十分	適	
5	学校組織・運営				
	(1) 組織運営計画				
	1)	学校運営の将来構想と整合性のある中・長期計画を立案している	達成	適	閉校に向けて。閉校に向けて将来構想という表現がよいのか。
	2)	学校運営の将来構想と整合性のある年間計画を立案している	達成	適	
	3)	学校運営の将来構想を検討する場をもっている	達成	適	
	(2) 組織体制				
	2)	教員組織と事務組織は連携が取れている	達成	適	コミュニケーション不足が原因と思われる重複や不足がある。時々事務への事前連絡がないことがあり（主に実習に関して）。
			達成	適	
	(5) 教職員への支援				
	2)	教職員が働きやすい環境を整備している（時間外労働削減、年次休暇取得、ストレスケア…）	達成	適	環境の整備に努めているが、業務の状況により、年次休暇が計画的に取得できない教員あり。自宅に持ち帰り、使途としています。
			不十分	適	
	(6) 情報・文書管理				
	3)	学籍簿は、適切に記録し、保管されている	取組中	適	令和4年3月卒業生の学籍簿の作成が止まっている。
6	教育環境				
	(1) 施設設備				
	4)	教室などの施設設備や機械器具、模型及び図書は学生が自由に活用できる	取組中	適	一部、自由に活用できない物もある。模型に関しては、外からでは見えないので。
			不十分	適	
8	学生生活への支援				
	(2) 自主活動				
	1)	課外活動、ボランティアの支援体制がある	取組中	適	ボランティア委員と担当教員はがんばっている。
9	地域との連携				
	(1) 地域連携				
	1)	教育活動を通して地域社会への貢献を積極的に行なっている	不十分	適	定時制という時間の制約があり、困難なところ。
	2)	地域の諸資源を学習教育活動に取り入れている	取組中	適	コロナ禍でなかなか地域へ出ていくことが難しい。
10	評価以外の課題				
<p>閉校に向けて、必要な業務が各年度で変化していく今後の2年間であると考えられる。よりきめ細やかな情報伝達が求められる。分担する業務はもちろんだが、その周辺業務、影響を受けるだろう事柄について、人ごとと思わず目配りできるようにしたい。</p>					

＜自己点検＞

評価は、点検項目ごとに、その項目に精通した教職員・精通した教職員が評価し教務主任が総括した。評価表は、看護師養成所（2年課程）自己点検表（岐阜県、平成27年）を用い、適、否、該当なしの3段階で下記の点検項目に沿って実施評価した。

評価結果

各点検項目は次のように判定された。

点 検 項 目	項目数	判 定 数			判 定（ 割 合）		
		適	否	該当なし	適	否	該当なし
1 学生に関する事項	11	9	1	1	81.8%	9.1%	9.1%
2 施設設備等に関する事項	106	100	0	6	94.3%	0%	5.7%
3 教員等に関する事項	23	19	1	3	82.6%	4.3%	13.1%
4 教育に関する事項	16	15	1	0	93.8%	6.2%	0%
5 実習に関する事項	31	30	1	0	96.8%	3.2%	0%
6 変更承認及び届出その他に関する事項	3	3	0	0	100%	0%	0%
7 その他	8	8	0	0	100%	0%	0%
合 計	198	184	4	10	92.9%	2.0%	5.1%

3 否と判定した点検項目の判定理由及び改善等について

1) 評価件数

「否」と判定したものは4項目で4件あった。

2) 点検項目別判定理由及び改善等

点 検 項 目	判定理由及び改善等
1 学生に関する事項 (5) 他の分野で働く社会人に対して、その経験に配慮した入試を設けているか。	社会人入試は、2年課程であり配慮していない。
3 教員等に関する事項 (13) 実習指導教員（実習施設で学生の指導に当たる看護職員）は施設数を踏まえ適当数確保しているか。	実習指導教員は確保していない。専任教員の臨地実習指導時間は規定時間内で実施できている。
4 教育に関する事項 (9) 臨地実習は、実践活動の場において行う実習のみとしているか。	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、臨地実習が実施できない施設・期間が生じた。そのため、学内実習で代替する実習があったが、実習施設から事例提供してもらうことや、より臨地実習に近い状況を設定するなどの工夫を図った。
5 実習に関する事項 (6) 実習病院が同時に受け入れる学生数は、看護単位ごとに10名を限度とし、多数の養成所が実習を行う場合には、全体の实習計画の調整を行っているか。	母性看護学実習の主たる実習施設がクリニックであるため、病院以外の実習が全体の3割を超える。実習環境としては、病院実習に準じて行っているが、病院実習時間を増やすよう検討を続ける。

<個別行事総括>

行事総括は、個別行事の担当者が、主要学校行事が完了する都度行った。総括の内容は、行事の概要について他、反省、問題点、要改善点、課題等を取りまとめ、職員会議、教務会議などの関連会議にて報告した。報告した学校行事は下記の通り。

1 評価の方法

- 1) 評価者 個別行事の担当者
- 2) 評価時期 主要学校行事が完了する都度
- 3) 総括の内容 行事の概要・評価のほか、反省、問題点、要改善点、課題等を記載している。
- 4) 総括の報告 担当者が職員会議にて報告した。

2 総括を作成した個別行事

- 1) 入学オリエンテーション
 - (1) 期日 令和4年4月6日～21日
 - (2) 総括（別紙）令和4年度 入学オリエンテーション総括
 - (3) 報告 7月職員会議
- 2) 合同就職説明会
 - (1) 期日 令和4年5月11日
 - (2) 総括（別紙）令和4年度 合同就職説明会総括
 - (3) 報告 8月職員会議
- 3) 教育研修
 - (1) 期日 令和4年5月18日
 - (2) 総括（別紙）令和4年度 教育研修総括
 - (3) 報告 8月職員会議
- 4) 新卒者交友会
 - (1) 期日 令和4年6月18日
 - (2) 総括（別紙）令和4年度 新卒者交友会総括
 - (3) 報告 8月職員会議
- 5) 防災訓練
 - (1) 期日 令和4年10月7日
 - (2) 総括（別紙）令和4年度 防災訓練総括
 - (3) 報告 11月職員会議

<課題の解決>

・評価項目で「不十分」「否」、個別行事総括で「問題点・課題」とした事項は、教務会議または職員会議で課題を整理し、課題解決策及び次年度課題への取り組みについて協議した。協議した結果をさらに学校評価委員会で重要な課題とそれ以外の課題に区分し、課題の改善に向け組織的に取り組んだ。